

日本原水協FAXニュース

発行:原水爆禁止日本協議会 電話:03-5842-6031 2011年
FAX:03-5842-6033 Eメール:antiatom55@hotmail.com 3月17日

被災地からの情報をお伝えします。

石堂祐子 (福島県原水協事務局長) : (受信日: 3月16日)

今回の地震では全国のみなさんからたくさんのお見舞いと励ましのメッセージをいただき、本当にありがとうございます。福島県原水協は、3月6日、7日の2日の総会を終え、新署名と平和行進へ向けて動き出そうとしていたところでしたが、日本がこれまで経験した事の無い大きな地震、津波にみまわれ、かつ追い討ちをかけるように原発の事故による放射線のため、半径20キロ圏内に住む多くの方が福島県内各地に避難するという事態になっています。避難場所が足りなく遠く新潟県に近い会津坂下町などまでが避難場所になっています。津波で家や家族を失った上に原発の事故でまた避難場所を移動したり、中には家族が別々の避難場所に移されるなどそのストレスは計り知れません。避難場所は寒く、今朝は氷点下になったところが多いのに暖房が少なく、食料も十分ではありません。おにぎり一個を3人で食べていると言う地元のニュースもありました。停電している地域はニュースを見ていませんので情報が不十分です。家族や知人と連絡がとれない人もまだいらっしゃいます。福島県原水協も、相馬やいわきの原水協関係者とはまだ連絡が取れていません。とても心配です。

今何が必要かと聞かれても多くの方が「なにもかも」といいます。助けに行きたくても、原発から離れたくても交通手段がない、ガソリンがない、電気も水道も止まっているのでは何も出来ないのです。津波が来なかなっただけ幸せな福島市、郡山市でさえ、電気も水道もまだ復旧していないところが多くありますし、食料品が手に入りません。スーパーには長い列。公民館の給水所にも2時間待ちの列。ガソリン不足で福島市の路線バスは「間引き運転」となり、大変不便です。

避難所で不足しているもの一灯油、食料品、医薬品、紙オムツなどの衛生品、仮設トイレ、医師、看護師 etc...それらを運ぶためのガソリンが何といても不足しています。政府の備蓄分はあるはずなのだから供給して欲しいです。

今日は東京行き的高速バス乗り場に長蛇の列ができていました。福島県からの脱出組です。政府は「〇〇マイクロシーベルトまでは安心して、落ち着いて行動を」などとニュースで言っていますが、福島県民は信用していません。それは、東電がこれまで何度も原発のトラブル隠し、報告データのねつ造をやっているのを知っているからです。県民の多くが反対しているのに、安全安全とあって、福島第一原発3号機でプルサーマル実施にゴーサインを出した福島県知事と東電の責任は重大です。

連日被災地に向かって飛んでいた沢山のヘリが、今日は一機も福島市の上空を飛んでいません。原発の30キロ圏内が飛行禁止区域になってしまったからです。1号機から6号機まである福島第一原発ですが、その1から4号機までが非常事態という恐ろしい事態になっています。現場で作業する労働者は命がけです。国はこの非常事態に全力を挙げて国民の命を守って欲しいです。

第2報 : (受信日: 3月17日)

原発の火災がとても心配です。三春町が町民(7,248人)にヨウ素剤の配付を開始したことが報道されていますが、かなり深刻な状況です。物資も欲しいのですが、他県からの物流も隣県までしか来ません。「放射能」への不安からです。いわき市に向かったはずの支援のトラックが茨城の日立市で止まっているとの県内ニュースがありました。このままだと被災&被爆&餓死なのかと、30km圏内で屋内待機をしている人たちは不安で一杯です。

他の地域の状況はまだ全部つかめていませんが、福島市では現在 29 カ所の避難所に 7,592 人が避難しています。最初は市内や近隣の自治体からの被災者の避難所でしたが、後から「原発 20km 圏内」から避難してきた方が増えました。昨年日本母親大会が開かれたあづま体育館も避難所になり、現在 2,000 人の方がいらっしやいます。この中には避難所を何度も移され、もう移動のための車のガソリンが無いという方もいらっしやいます。また、避難命令が出た 20km 圏内にまだ脱出していない人が 10 数人いる事が分かりました。ほとんどが寝たきりの高齢者や歩けない人などで、本当に胸が痛みます。

そんな中ですが、福島市が今回災害放送を委託したFM放送「FMポコ」に、常任理事の斉藤紀先生が生出演の予定です。きっと適切なアドバイスをしてくださるものと心待ちにしています。(放送は午後 3:00 ~3:30) (石堂)

渡部雅子 (秋田県原水協事務局長) : (受信日 : 3月16日)

秋田県原水協は3月17日に予定していた全県理事会を延期しました。今日から3日間、被害の比較的なかった東北電力管内で「計画停電」が行われること、ガソリンが不足し「足」の確保が困難なこと、被災地の親族や友人と連絡が取れずにいる人がいることなどからです。今日の秋田は時折吹雪き、外気はマイナス前後ですので、海風にさらされている被災地はいかばかりかと心痛めています。

被災者は、家族との連絡が取れない、情報が届かない状況にあります。停電、断水等が続き、道路も寸断されています。そのため、暖をとるためのストーブがない(多くのストーブは電源を電気からとるファンヒーター型なので)、あっても石油や電池がない、移動のためのガソリンもない、という状況のようです。車のある人は、車で暖を取り、カーラジオで情報を得ることができますが、ガソリン不足ですので不可能です。

自治体も大打撃を受けているので、まだ、十分に機能していないようです。

秋田県からは、米をはじめとする食料品、おにぎりや緊急物資等をおくっています。今日は、防寒着、生理用品、下着の提供が県庁から呼びかけられました。

秋田でも余震があり、停電、断水が回復しない地域が残っていますので市内の商店からは、インスタントラーメンやレトルトごはんなどの非常食となるものが姿を消し、電池や懐中電灯、カセットボンベ、トイレトペーパーなどはなくなり、がらんとしています。流通網が壊れて物資が入ってきませんが、日本海側の道路、港を使って物資ルートができそうな今日のニュースです。ガソリンスタンドは閉店が増え、石油も購入制限が行われています。

何か必要なものはとのことですが、日常生活に必要な、あらゆるものが不足しています。被災自治体からは、物資よりも現金を、という声もありましたが、被災された地域は高齢者が多いので、暖を取れるもの、暖かい食べ物、トイレなどがあればと思います。家族を亡くされ、家財を失って呆然としている方々には、つらい気持ちを聞いてあげることも大切だと感じています。若い人々の災害復旧ボランティアや炊き出しなどはいかがでしょうか。 原発不安も広がっています。

全国はひとつと署名・募金行動一岡山

岡山県原水協と岡山県労会議は3月16日、岡山駅ビックカメラ前で核兵器廃絶を求めるアピール署名活動と同時に、東北関東大震災の被害者救援のための募金活動に取り組みました。

この季節には珍しく雨と雪が混じり合う寒さの厳しい天候でしたが、9人が参加して署名は4筆、募金は18,091円を集めることができました。

募金・署名に協力していただいた人の中には、「福島原発の放射能漏れが怖い。核兵器の廃絶は当然だ」と言う中年の男性や、「自分の実家が東北にあり、親族一同の安否が心配だ。個人的にも支援に取り組んでいる」と話す人など、切実な思いを聞くことができました。胸が痛む思いを共有しながらの募金活動となりました。集約した募金額は3日間で157,098円となりました。感謝します。



署名と募金を同時にしてくれた女子高生

また、集団で募金をしてくれた高校生からは、「被災地に笑顔が戻るように」「自分たちにできることをがんばります」と前向きな思いを聞くことができ、全国は一つの思いを強くしました。

署名は4筆でしたが、今は団体の運動の成果が出せなくとも、被災者支援に全力を上げる必要があり、県原水協の姿を見せることも重要と考えています。それは要求運動のみならず、人間性の回復を求めて活動するものとしての信念から来るものです。岡山県労働組合会議は、今後も被災者の支援活動に努め、従来からの宣伝を継続します。(岡山県労会議 HP より)

日本科学者会議エネルギー・原子力問題研究委員会が声明を発表

日本原水協専門委員の野口邦和さんが委員長をしている日本科学者会議エネルギー・原子力問題研究委員会が「東北地方太平洋沖地震を契機とする福島原発の炉心損傷事故について」声明を発表しました。

声明の中で、①事故情報の公表について、生データを速やかに公表し、その評価を専門家にゆだねるべき、②過去における最大の冷却材喪失事故であるスリーマイル島原発事故の教訓を、これからの事故処理に生かすべき、③避難に関して、推定されるリスク(被曝リスク)と避難によるデメリットとを明らかにして、そのバランスに立った上での説得力のある指示を出すべき、④事故解決の基本的方針を明らかにして、国民の協力を仰ぐべき、⑤事故が収束した後は改めて問題提起を行うが、「最低限、地震の発生が予想される立地サイトでの原発の即時廃止、老朽化原発の即時廃止を行うべき」であり、地震国日本での原子力利用について根源的な議論がなされるべきとしています。

この声明へのお問い合わせは、同委員会委員長の野口邦和さん(日本大学・電話:03-3219-8146、FAX:03-3219-8344、noguchi-k@dent.nihon-u.ac.jp)または、前委員長の館野 淳さん(元中央大学・電話:0422-47-8581、ent-tat@parkcity.ne.jp)まで。

緊急救援募金よびかけに全国が応える

15日、全国に呼びかけた緊急救援募金のよびかけに、全国でさっそく応えてくれています。**愛知**:理事会と平和行進の会議で訴え。**三重**:会議で訴え、参加者全員募金に応じる。**富山**:19日の定期総会で訴える。**奈良**:19日に奈労連が10時から15時のロングラン募金活動を予定。**和歌山**:情報を加盟組織に流し、和歌山市原水協の会議で訴え。**鳥取**:理事に郵送。**兵庫**:団体と地域におろす予定。昨日昼に7人で署名と募金の街頭行動、30分で3千円の募金。18日の非核「神戸方式」決議36周年記念のつどい&「核兵器全面禁止のアピール」署名運動スタート集会でも呼びかける。**徳島**:神野事務局長が取りに行くといふと県原水協メールニュースで訴え。

ありがとうございます。引き続きご協力をよろしくお願いいたします。